

平成30年2月23日  
土地・建設産業局 地価調査課

## 主要都市の地価は89%の地区で上昇基調 ～平成29年第4四半期の地価LOOKレポートの結果～

平成29年10月1日～平成30年1月1日を調査対象とした地価LOOKレポートによれば、主要都市の地価は全体として緩やかな上昇基調が継続。

- ◆調査地点の約9割(89地区)で上昇(前期よりも3地区増加)。
- ◆比較的高い上昇(3～6%)を示している地区数は5地区増加((東京都)渋谷、表参道、(横浜市)横浜駅西口、(名古屋市)伏見、金山)、1地区減少((札幌市)宮の森)(10地区→14地区)。

### 【上昇の主な要因】

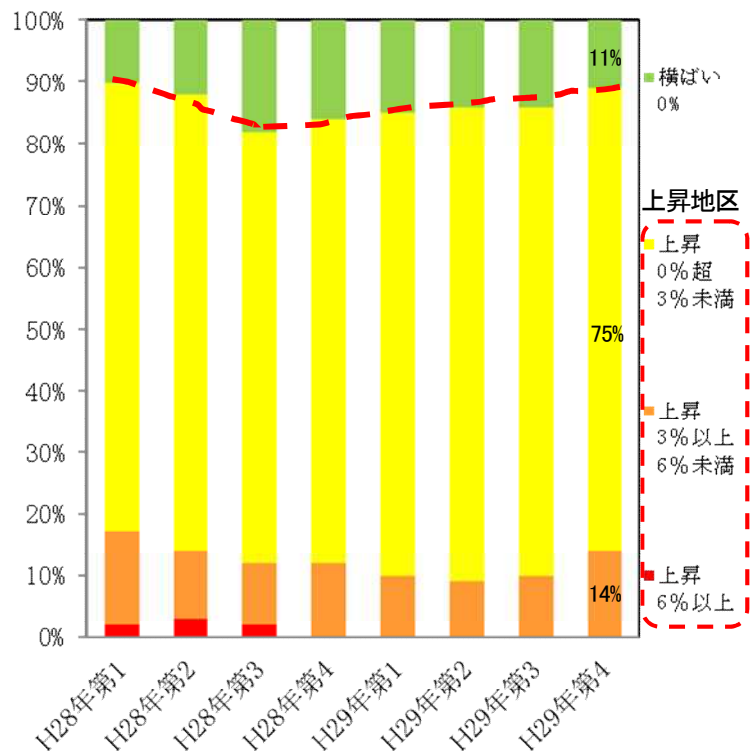
- 空室率の低下等オフィス市況は好調
  - 再開発事業の進捗により繁華性が向上
  - 訪日観光客による消費・宿泊需要が旺盛
  - 雇用・所得環境の改善、良好な資金調達環境の継続
- 上記要因を背景に、オフィス、店舗、ホテル等に対する投資が引き続き堅調。一部地区で需要の高まり。

### 【比較的高い上昇を示した地区】

- 3～6%の上昇(14地区)  
(札幌市)駅前通、(仙台市)中央1丁目、(東京都)渋谷、表参道、(横浜市)横浜駅西口、(名古屋市)名駅駅前、太閤口、伏見、金山、(大阪市)心斎橋、なんば、(神戸市)三宮駅前、(福岡市)博多駅周辺、(熊本市)下通周辺

### 【前期から変化した地区】

- 上昇幅が拡大(0～3%→3～6%)  
(東京都)渋谷、表参道、(横浜市)横浜駅西口、(名古屋市)伏見、金山
- 横ばいから上昇(0%→0～3%)  
(東京都)南青山、二子玉川、(鹿児島市)鹿児島中央駅
- 上昇幅が縮小(3～6%→0～3%)  
(札幌市)宮の森



### ※地価LOOKレポート(主要都市の高度利用地地価動向報告)とは

国土交通省が、主要都市の高度利用地等を対象に、四半期毎の地価動向を調査し、先行的な地価動向を明らかにするものです。調査対象は全国100地区で、内訳は以下のとおりです。

- 東京圏：43地区、■大阪圏：25地区、■名古屋圏：9地区、■地方圏：23地区

調査結果の詳細は、国土交通省HP 土地・建設産業局のページ 地価LOOKレポートにて公開しています。

([http://www.mlit.go.jp/totikensangyo/totikensangyo\\_fr4\\_000045.html](http://www.mlit.go.jp/totikensangyo/totikensangyo_fr4_000045.html))

### <お問い合わせ先>

土地・建設産業局 地価調査課 地価公示室

主任分析官 吉野(内線30366)、分析官 相部(内線30367)、鑑定官 河野(内線30363)

(代表) 03-5253-8111 (直通) 03-5253-8379 (FAX) 03-5253-1578